

私の改革論

⑤

なせ今、バスケット界が緊急事態を迎えたのか。そこには日本スポーツ界の根深い問題がある。日本のスポーツは学校体育と高学部の延長線上にある勝利至上主義。欧米のようにスポーツを文化としてとらえていない。それは日本協会の体質にも影響を及ぼし、ガバナンス欠如などの問題に直結している。

医学部卒の現場アプローチ

東京エクセレンス辻秀一 代表



NBDL東京エクセレンスの辻秀一代表

興法は①学校体育②部活③企業スポーツ、を重視していた。日本はこの理念を元にスポーツを発展させてきたが、文化的側面では欧米から立ち遅れた。体育（小中学）→部活（高校）→体育会（大学）・勝利至上主義の

辻秀一（つじ・しゅいち）1961年（昭36）5月23日、東京都生まれ。北海道大医学部を卒業し、慶大医学部内科学一慶大スポーツ医学研究センター。スポーツ心理学を日常生活に応用し、パフォーマンスを最適にする「辻メソッド」でメンタルトレーニングなど著書も多数。13年から東京エクセレンス代表として、初年度に続き今年も達成した。

ピラミッド構造では、競技が好きでも中学、高校までにドロップアウトする人が少なくない。スポーツドクターになつてからスポーツの文化性を研究。①医療（元氣）②芸術（感動）③コミュニケーション（仲間）④教育（成長）と導き出した。以上の4つは人間が生きていくために必要な心のビタミン。地元

のクラブを住民みんなが愛して人生を豊かにする。スポーツは勝ち、負け、うまい、下手だけではなくなる。Jリーグを創設したサッカーにはスポーツ文化の考え方がある。それは日本協会の改革を主導するタスクフォースの川淵三郎チエアマンの理念に重なる。5年前、雑誌で対談し、考え方を

に共鳴した。Jリーグの10年構想では全国の運動場の芝生化などを提唱。その理念はJクラブにしっかりと共有されている。11年、スポーツ振興法を50年ぶりに改定したスポーツ基本法が制定。前文には「スポーツは世界共通の人類の文化である」と明文化された。文化など、理想主義で、目の前の金、勝利が大事との声もある。時間はかかるだろう。だが、地道にスポーツ文化を浸透することこそが、協会、クラブ、地域を潤し、日本代表の強化にもつながる。バスケット界の再生のカギを握るのはスポーツ文化だ。

【取材・構成】田口潤

教育から文化へ地道に